



あびら地域公共交通便り

～安平町地域公共交通網形成計画の概要版～

第4号

【編集・発行】安平町企画財政課企画グループ



この計画が目指すもの

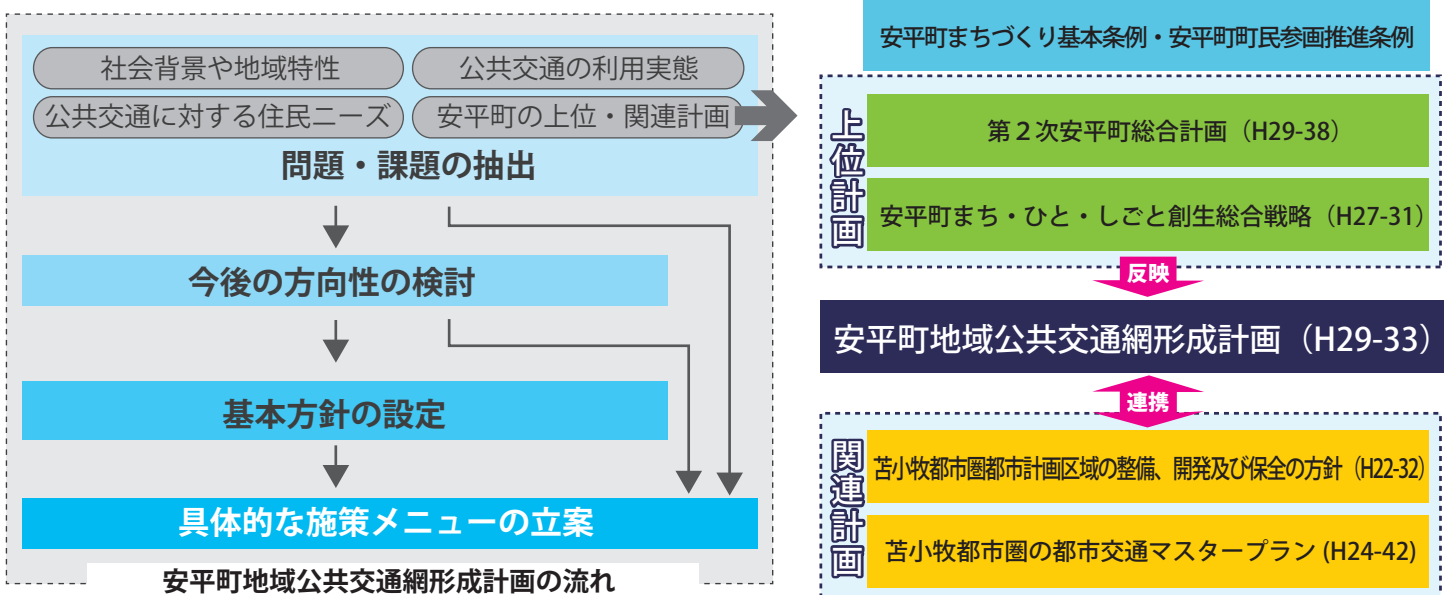
日本全体が人口減少局面に入っているなか、安平町も経年的に少子高齢化が進行している状況です。人口減少対策により緩和を図っていますが、今後もその傾向が続くことが予想され、公共交通でしか移動できない町民の増加が想定されます。

安平町内の公共交通はJR・路線バス・デマンドバスなど、小さな町でありながら多岐にわたっている一方、利用者の少ない便や経路が重複している区間などがあり、既存の公共交通を活かして、交通事業者の共存や費用負担とのバランスも加味した最適なサービスの検討が必要です。

安平町では、このような状況を踏まえ、まちにとって望ましい公共交通網の姿を明らかにする基本計画として「安平町地域公共交通網形成計画」を策定しました。

この計画には、今後さらに検討や推進を図る施策メニューも盛り込んでおり、既存の公共交通をより効果的に機能させ持続可能な交通体系を構築し、地域住民の足を確保するだけでなく、他のまちづくり施策とも一体となって利用促進を図ることで、住みよいまちづくりを目指していきます。

計画策定の流れと上位計画や関連計画との位置づけ



計画の策定まで

計画策定に当たっては、公共交通に係る各種調査に加えて、策定経過に関わる情報発信、庁内検討委員会・地域公共交通会議による協議など、多様な検討を行ってきました。

主な実施内容

JR・バス利用実態調査（乗降調査）を実施
地区別意見交換会を実施（全4回）
住民アンケートを実施（病院・食料品店などで実施 計213名）
あびら地域公共交通便りの発行（広報紙面・全戸配布 全4回）
計画策定に係る庁内検討委員会での検討（全5回）
地域公共交通会議での検討（全3回）
計画(素案)に関する町民意見の募集（結果:意見提出なし）
計画(案)に関するパブリックコメント実施（結果:意見提出1件）

無料巡回バスが交通事業者の経営を圧迫し、撤退問題に発展した過去があります。鉄道・民間バス・ハイヤーが撤退して困らないよう、共存できる解決策を見出していきたいでしょう

昔の無料巡回バスを復活して！

デマンドバスの運賃が高い！



安平町地域公共交通の現状と問題

上位・関連計画及び安平町の地域特性に加え、鉄道やバスの利用実態調査、地区別の意見交換会、住民アンケート等の結果から、その背景とともに4つに分類し、現状と問題を整理しました。

背景・考え方		現状・問題点	
地域特性 社会背景と	公共交通を取り巻く環境	公共交通に対する認知度が低い ⇒ 存在は知っていても詳細を知らないために活用できない	
		2町合併による早来地区、追分地区を中心とする合併後の市街地形成	
		少子高齢化の進展に伴う公共交通利用者の減少と維持費用負担	
		人口減少に伴う少年団・部活動の合同化	
		新たな地域資源（道の駅）が立地予定	
		全国的な高齢者による運転の増加	
		公共交通に対する重要度が高く、満足度が低い	
安平町の交通特性	町内の交通	既存路線の効果的な運行	
		せいこドーム利用者への無料送迎バスの運行	
		あつまバスによる循環線を運行しているが利用者が少ない 利用者が少ない路線の存在	
	デマンド交通の改善の必要性	平成24年度まで運行していた町営無料循環バスの復活に対する根強いニーズ ⇒ 一方でハイヤーの撤退問題や公共交通としての位置付けの再認識	
		デマンド交通による空白地域のない公共交通サービスの提供への取組み（町営無料循環バスの代替え）	
		デマンドバスとJR等の他の交通手段との接続がない	
		デマンドバスの土日の運行がない	
		デマンドバス利用手続きの負担（予約や取り消し等）	
		デマンドバスの既存の乗降場所や利用者が少ない便の見直し	
		ハイヤー事業との棲み分けの配慮	
待合拠点の位置付けがない			
町外との交通	近隣市町との接続性		
	安平町外へ買い物・通院、更には通勤・通学のためにJRやバス（地域間幹線系統）を利用する町民の存在		
	運転者自身の高齢化及び自動車による移動が困難となった場合のJRやバス（地域間幹線系統）の利用ニーズがある 南千歳への接続便が少ない JR北海道の運営方針の変化		

安平町地域公共交通の課題とその解決に向けた方向性

「公共交通を取り巻く環境」、「既存路線の効果的な運行」、「デマンド交通の改善の必要性」「近隣市町との接続性」の4つのカテゴリーにて整理した問題・課題について、それぞれ解決へ向けた具体的な方向性をまとめました。

具体的な方向性	実現に向けた課題
時代背景を踏まえ、誰もが利用しやすい公共交通のあり方を構築	現状の公共交通に関するきめ細かい情報提供
	新たな資源を結び、町民や町外の人との往来や回遊と交流を促す交通体系の整備
	投資効果を最大化し、町民の納得性の高い効果的な公共交通体系の構築
	時代背景（少子化等）に即した交通体系の整理
	全国的な高齢者による事故の増加への対応 ⇒ “私たちの公共交通”意識の醸成
	交通弱者に対する目的に合わせた適切な公共交通サービスの確保
	町民の意見や生活行動に基づいた公共交通網の構築 公共交通利用促進に向けた取組み
公共交通のネットワークを強化し、移動利便性の向上を実現	目的外利用が出来ないせいこドームバスに対する、多目的利用への見直し
	移動実態に合っていない運行ダイヤやルートが限られている循環線の見直しが必要
	町内4地区の移動を支援する循環型交通体系の検討
交通空白地域のない公共交通を維持し、町民交流の活性化を実現	既存交通事業者（JR、ハイヤー等）に配慮した網形成が必要
	町内全ての交通手段の中でのデマンドバスの位置付けの再検討 ⇒ 郊外部の交通支援の位置付けを意識
	デマンドバスの予約方式における柔軟な対応
	デマンドバスと他の交通手段との連携による移動支援
	土曜日診療の移動手段の確保
	滞留空間の創出による待合時間の有効利用
	利用者の視点に立ったデマンドバス運行事業者への働きかけ
近隣市町へのアクセスを強化し、流動の活性化を実現	JR路線の維持・確保を補完する交通体系の整理
	生活実態に対応した千歳・苫小牧等の近隣都市へのアクセス強化
	高齢者への情報提供

施策の体系

以上の公共交通の問題・課題を踏まえた安平町地域公共交通網形成の基本的な考え方と基本方針、施策メニューの体系は以下のとおりです。

《基本的な考え方》

- ・ 交通拠点の創出による地域公共交通網の利便性向上と町内の回遊・交流空間を促進する交通体系の構築を目指す
- ・ 町民の足を守るため鉄路を維持・確保し、これを補完する地域内循環系統、デマンドバス等の町内を運行する公共交通の位置付けを明確にする

【基本方針①】

地域内循環系統の効率化

JRの空白時間帯を基本とし、せいこドームバスと路線バスの統合による町内4地区を循環する新たなバス路線の運行を検討し、町内の回遊性を高めます。

【基本方針②】

デマンド交通の効果的運行

JRのダイヤに合わせた運行時間の配慮、利用者の少ない便の効果的運用等、デマンド交通の効果的運行を検討し、町内の移動を支える交通サービスとして質的向上を図ります。

【基本方針③】

利用促進策の検討

JRとバスを併せた総合的な時刻表や路線図の作成による効果的な情報の発信、説明会の開催、買い物割引制度の検討など、町民の利用促進策を検討し、公共交通の確保・維持に努めます。

【基本方針④】

町民協働による意識醸成

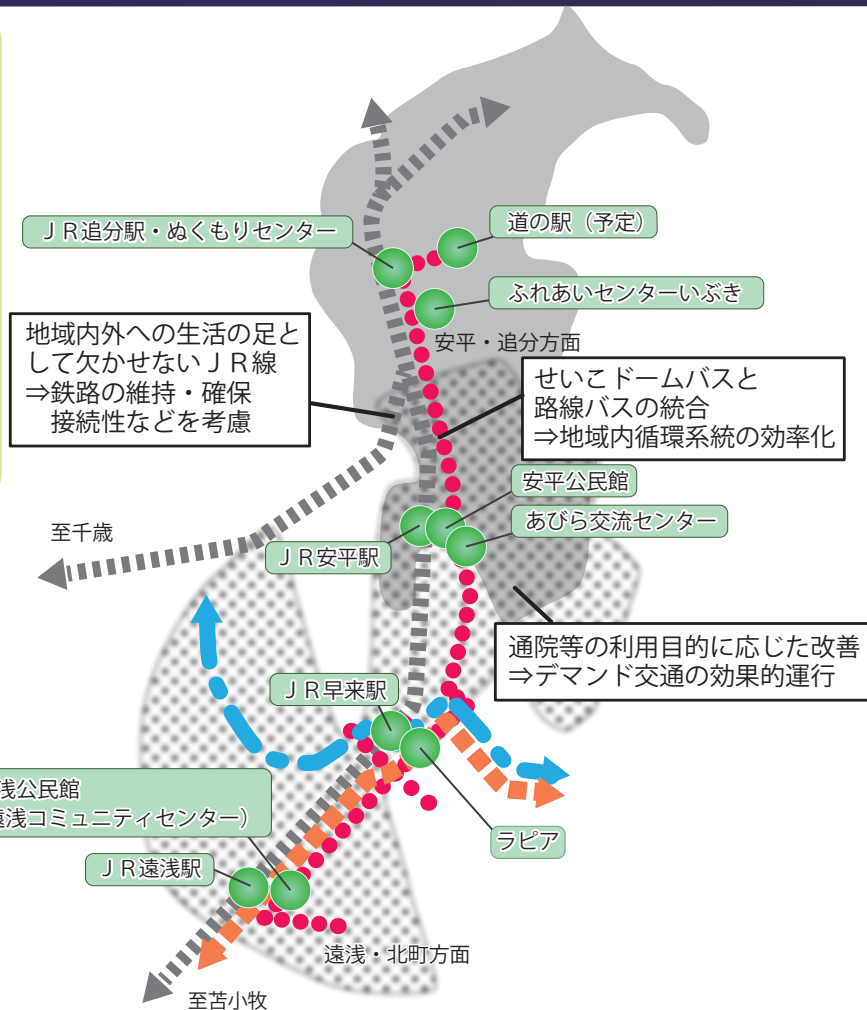
ノーマイカーデーの設置、バス停・待合拠点の美化活動、意見交換会の開催等、町民協働による取組を検討・実践し、身近な存在としての意識醸成を図ります。

基本方針				施策メニュー
①	②	③	④	
		●		1.My時刻表、総合時刻表、路線図の作成と提供
		●		2.乗継割引・買い物割引の検討
	●			3.立地予定の道の駅などの集客施設への立ち寄り（町内・町外からの回遊・交流促進） ⇒ 停留所の設置や時刻表の工夫などによる回遊・交流促進
		●	●	4.説明機会の創出、個別訪問の実施など、町民対話型による公共交通の検討 ⇒ 利用者の少ない地域や効率性に配慮した合意形成に基づく中長期的な検討
			●	5.部活動や少年団の利用に向けた働きかけ
		●	●	6.ノーマイカーデー、イベントの検討
			●	7.高齢者運転への対応として免許返納時の期間限定割引サービスの検討
		●	●	8.あびらチャンネルによる情報発信 ⇒ 地域に応じたデマンドバスなどの情報発信・子ども利用に係る情報発信
			●	9.町民協働による「私たちの公共交通」意識の醸成 ⇒ 待合拠点の美化活動など、施策4や6とも一体的に検討
	●			10.せいこドームバスの利用形態と便数の維持を基本とした更なる効率化策の検討
	●			11.せいこドームバスと循環線の統合による新バスの運行
	●			12.JRの運行ダイヤに配慮した補完型の地域内循環系統の運行 ⇒ JRの空白時間帯を基本とするバス交通の運行
		●		13.高齢者の通院支援 ⇒ 土曜診療への対応検討(平日便を減らして運行曜日を増やすなど中長期的に検討)
		●		14.病院の帰り時間の対応 ⇒ デマンドバスの病院の立寄時間の明確化の検討 ⇒ デマンドバスのキャンセル受付時間の短縮を検討
		●	●	15.待合空間の環境整備を含めた町民が利用しやすいデマンドバスの実現 ⇒ 待合しやすい空間の創出、停留所の表示改善
		●		16.町民目線の柔軟な対応 ⇒ デマンドバスの登録や予約のさまりの柔軟化の再検討
		●		17.JRやバス(地域間幹線系統)との接続性を考慮したデマンドバスの運行
	●		●	18.新バスとの共存によるJRの維持・確保 ⇒ 公共交通の共存を基本とした施策展開
	●		●	19.新バスの導入によるコスト縮減から安平町-南千歳間のバスの増便を検討
		●		20.増加が見込まれる高齢者のための情報提供

将来の安平町における公共交通像

将来に向けた安平町の公共交通像については、通勤・通学で流動する近隣市町との関係や安平町内の拠点へのアクセスなどを念頭に、JRやバス（地域間幹線系統）の「地域間幹線」とバス（地域内循環系統）やデマンドバスなどの「地域内交通」による体系を描いています。

なお、バス等はJRとの接続性や空白時間帯を考慮した公共交通網の形成を目指します。



凡 例	
JR 線	
バス（地域間幹線系統）	
苦小牧線	
千歳線	— —
バス（地域内循環系統）	
「新バス」	●●●●
デマンドバス	
追分・安平市街地	■
早来・遠浅市街地	□
待合 拠点	●

具体的な施策例

施策 No.1 My 時刻表、総合時刻表、路線図の作成と提供

日頃公共交通を利用しない町民や高齢者にも、わかりやすい公共交通の時刻表・路線図の作成・提供を行うことにより、公共交通への利用促進を図ります。

特に時刻表は、町内を運行するバス・JRを横断的に整理した総合的なものとしながら、自分が利用するバス停や時間帯を限定して掲載することができる「わかりやすい私の時刻表」の作成・提供を事例等を参考にして検討します。

■ 総合時刻表の例

目的施設名	路線名	最寄りバス停	目的施設の情報
イヨボヤ会館	追分・安平市街地	追分	開館時間 9:00~16:30 TEL 82-7117

目的地	バス	JR
【行き】 追分 → 小島島	追分 10:00 10:21 安平 11:06 11:27 大津戸 11:47 11:51	追分 10:00 10:11 安平 11:06 11:16 大津戸 11:47 11:51
【戻り】 小島島 → 追分	小島島 10:06 10:11 安平 11:06 11:16 大津戸 11:47 11:51	追分 10:00 10:11 安平 11:06 11:16 大津戸 11:47 11:51

■ 路線時刻表に「私の時刻表」を掲載した例

施策 No.11 せいこドームバスと循環線の統合による『新バス』の運行

せいこドームバスの利用形態と便数は維持しながら、循環線（既存の路線バス）を再編することにより、効率的で効果的な『新バス』を運行します。これにより、更なる健康増進と町内の回遊性を高め、地域活性化に寄与する公共交通を実現します。

また、新バスはJRの運行時間帯に配慮して、共存による町内回遊性の向上、交流人口の拡大を図ります。

進行管理と推進体制

本計画の目標の実現には、行政や交通事業者のみならず、町民の理解・参加・協力が不可欠であり、地域の一人ひとりが主体的に考えて取り組むことが重要です。

そのため、本計画に係る各施策は、多様な主体で構成される「安平町地域公共交通会議」により、施策の進捗状況、効果や妥当性を確認し、進行管理を行っていきます。